

災害対策について

協議、検討する／町長



ふじもと いわお 議員 藤本 岩義

① 住基戸籍の保管状態について。

黒潮町政の基本である住民票や戸籍が震災によって失われると、被災後の罹災証明や、義援金の配布、仮設住宅などの行政機能まひが起これると考えられる。

高知県では、津波が20mとも言われており、危機管理体制として、拳ノ川の保健センターに「副サーバー室」の設置を提案する。

② 被災者支援システムにつ

いて。

西宮市が実体験を元に作成した救護や支援等、復興業務を行うためのシステムを総務省が全国の自治体に無償提供しているが、導入できないか。

③ 保健師活動記録について、被災地での活動報告の中で、住民のデータが失われ、その町の保健師の頭に残っている記憶が頼りだったと聞く、リスク回避に保健師活動記録を電子化する考えはないか。

答

大西町長

松本住民課長

大塚地域住民課長

矢野健康福祉課長

① 現在は、バックアップデータを本庁に保管している。サーバについては、多額の経費が必要なことから、今後協

議をしていきたい。
② 現在、県内に導入事例はなく、要援護者システムの拡充をしたい。
③ 保健師活動のデータの一元化ができていない。データ管理を検討する。

地域活性化	
交付金の	見直しは
増額は困難	／副町長

問

① 22年度決算では佐賀地域への交付金は合併時の1/4近くになっている。これほど下がると中山間部落の運営が厳しい。

過去の議会答弁で22年度に見直すと答弁がされているがその後どのように見直したのか。少しでも、交付金が増えるようにまた税収が上がるように、口座振替等の案内はしているか。
② 地域整備事業について問うが、一般会計総額1%の予算は確保できないか。そのう

ち30〜40%は別枠（町長調整枠）としてはどうか。

答

植田副町長

① 地域の維持とカ行事等の財源になっていること、少子高齢化で部落の維持が難しいことは承知している。24年度以降も多くの事業があり、増額は難しい。口座振替等のPRはしていないので今後行う。

② 23年度は4000万円で進捗率は28・6%、事業費増は予算の状況を見ながら若干増やせるものであれば考えた

庁舎位置	
報告書の重視は	意見は無視しない
／町長	／町長

問

庁舎検討委員会が2年にまたがり黒潮町全体を考え検討し作成した報告書は重いものだ。町長はこの報告書を重視

する考えはないか。

答

大西町長

検討委員会の意見は無視していない。スケン谷を表明したが今後、議会とも十分に議論してから決定のプロセスを歩んでいく。

拳ノ川診療所	
医師住宅の	建築は
今後検討する	／町長

問

中山間地域の安全安心、地域医療向上のために、早急に拳ノ川診療所医師住宅を建築する考えはないか。

答

大西町長

大塚地域住民課長

地域医療に目を向けた医療となると診療所の近くに住宅は必要と考えるが、今後検討していく。